



外国語検定試験特集 ~あなたもぜひチャレンジしよう!

語学の担当教員が勧める検定試験の案内と受験学生の体験

英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・韓国・朝鮮語・タイ語・日本語



英語の資格試験

経営学部 石原 知英



日々の学習の成果が目に見えにくい英語の力を数値化してくれるのが、資格試験です。せっかく学習を積み重ねていても、ふと、本当に英語の力が身についているのだろうか、この学習方法でいいのだろうか、と思悩むこともあるかもしれません。普段の生活の中で英語が使える実感があればいいのですが、日本で暮らしていると、なかなかそういった機会はないでしょう。そんな時は、検定試験を受験するのがお勧めです。定期的を受験することで、学習の成果を実感でき、今後の学習の励みになります。また、学習の成果が資格という形で残りますから、将来の就職などにも役に立ちます。本稿では、数多の英語関連の資格試験から、有名どころを紹介します。それぞれに特徴があるので、目標に応じて受験してみましよう。

(1) 実用英語検定試験 (英検)

英語の能力を、スピーキング・リスニング・ライティング・リーディングという4つの技能から構成されると捉えるなら、その4技能をバランスよく測定、評価できるのは、実用英語検定試験、通称「英検」です。2013年度の英検は、6月、10月、1月の3回実施されます。初めて受験するなら、高校卒業レベルの2級から始め

るのが適しています。在学中に準1級、あるいは1級が取得できれば、自信を持ってアピールすることができます。

英検には、1次試験(2級は多肢選択、準1級・1級は記述式あり)と2次試験(面接)があります。1次試験は読解と聴解が中心で、短文の空所補充や長文の内容理解問題、英作文、リスニング問題があります。2次試験は面接形式で、音読課題(2級)、4コマのイラストを説明する課題(準1級)、スピーチ課題(1級)を中心に、面接者の質問に答えたり、考えを伝えたりする課題に取り組みます。

英検に合格するためには、4技能をバランスよく伸ばすことが肝要です。特にスピーキングは、個人学習にも限界がありますから、Communicative English(1年次必修)やCommunication Skills(3・4年次選択)といった科目を履修し、英語を話す機会を増やすとよいと思います。また、難易度の高い単語が多く出題されますので、学内外で利用できるALC Net AcademyのPower Wordsなどを活用し、語彙力アップにも力を入れてください。

(2) TOEIC

TOEICは、主にビジネス場面での英語コミュ

ニケーション能力を評価する試験で、2013年度は、8月と2月以外の毎月実施されています。ビジネスに限らず一般的な英語力の指標としても有用であることから、本学では1、2年次の学年末に TOEIC IP を受験することになっていますので、みなさんにとっては最も馴染みのある試験かもしれません。就職活動の際にスコアの提出を求めたり、昇進の条件としてスコアを用いる企業も多いようです。スコアは10点から990点までで評価されます。1年生450点、2年生550点、3年生650点というあたりが目安でしょうか。英語を専門とする学生のみなさんは、730点はクリアしておきたいですね。

TOEICは、リスニング(45分間・100問)とリーディング(75分間・100問)で構成され、写真描写問題(Part 1)、応答問題(Part 2)、会話問題(Part 3)、説明文問題(Part 4)、短文空所補充問題(Part 5)、長文空所補充問題(Part 6)、読解問題(Part 7)が出題されます。全てマークシート方式のテストですが、まぐれでよいスコアが取りにくい採点方法を取っており、スコアが安定していることに定評があります。

TOEICは、試験時間が長い上に、問題の量が多く、メモや書き込みが不可など、慣れるまでは大変に感じるかもしれません。また、頻出するビジネス関連の語彙知識も、ある程度身につける必要があります。スコアアップには大量の問題演習をこなすことが近道ですので、ALC Net AcademyのTOEICコースなどを利用して学習を進めましょう。2年次必修のTOEIC Iに続けて、選択科目のTOEIC IIを履修するものもお勧めです。

(3) TOEIC S/W

2007年から新しく実施されているのが、TOEIC S/Wテストです。2013年度は毎月実施され、12月までの日程が確定しています。

TOEIC S/Wは、スピーキングとライティングに特化した試験で、それぞれの技能をより直接的に測定できます。最近、知名度が徐々に高まってきていますので、就活などで他の応募者との差別化を図り、「使える」英語力をアピールするためにも、有用なテストだと思います。

TOEIC S/Wテストは、試験会場のPCを使って受験します。スピーキングは約20分で11問(音読問題2問、写真描写問題1問、応答問題3問、提示情報を用いた応答問題3問、解決策を提案する問題1問、自分の意見を述べる問題1問)の構成で、ヘッドセットで音声を聞き、解答を吹き込みます。ライティングは約60分で8問(写真描写問題5問、メール作成問題2問、意見記述問題1問)の構成で、指示に従ってキーボードで解答を入力します。

TOEIC S/Wテストはまだ新しいため、それほど問題集や参考書が多くありません。まずは公式問題集から始めてみるのがよいでしょう。また、2年次以降の選択科目Writing I/IIのクラスを履修するのも効果的です。ヘッドセットを使ったり、タイピングによって解答を入力するため、そうした基礎的なスキルも必要となります。厚生棟4階のCALL教室にはそうした設備もそろっています。

(4) TOEFL iBT / TOEFL ITP

TOEFLは、英語を母語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテストです。英語圏の多くの大学でTOEFLのスコアを留学生受入れ要件として設定しているため、留学を考えている学生のみなさんには必須の試験です。この4月には、自民党教育再生本部による「大学の受験資格や卒業要件にTOEFLのスコアを用いる提言」がなされるなど、今後の動向も注目されています。

TOEFLには様々な受験形態があり、ややこ

しい印象があるかもしれません。TOEFL iBT が公式スコアで、0 から 120 点で評価されます。愛知大学では、派遣留学のため、団体受験制度である TOEFL ITP (677 点満点) が実施されています。iBT と ITP では問題の形式や内容が異なるため、注意が必要です。また、大学によって要件とするスコアも異なりますので、留学を考えている学生のみなさんは、国際交流センターで確認してください。一般的には、iBT なら 70 点程度を、ITP なら 550 点程度を目標とするとよいでしょう。

TOEFL iBT は、試験会場の PC を用いた試験で、4 時間程度をかけてスピーキングやライティングを含む多種多様な問題に取り組みます。

TOEFL ITP は、従来の紙とマークシートを用いた試験で、およそ 2 時間の試験です。リスニング (50 問)、文法 (40 問)、読解 (50 問) の 3 つのパートから構成され、310 点から 677 点で評価されます。過去の TOEFL 問題を利用していますが、こちらも採点の際に統計的な処理を行っているので、スコアの安定性は十分高いと言えます。

どちらの試験でも、海外での大学生活を想定しているため、講義を聞いて理解する問題や、キャンパス内での事務的な手続きに関する内容の問題が出題されます。特に iBT では、総合的な高い英語運用能力が求められると言えるでしょう。

これらの他にも、国連英検やビジネス英検、通訳案内士 (通訳ガイド) 試験など、様々な資格試験があります。語学教育研究室では、それぞれの試験で一定以上の成績を取った学生に、奨励金を贈っています。みなさんの学習の成果を確認し、今後の学習に繋げていくためにも、是非積極的に資格試験を利用してみてください。

TOEIC と私

法学部3年 森 優香子

私は英語が好きでも得意でもない。ましてや TOEIC は今まで受けた様々な試験のうち最も嫌だと思った試験だった。(ちなみに二番目は愛知県の某私立高校の入試問題。)

その1 解いていてつまらない

問題が短文でストーリーもなにもなく、問題を解くというより処理する形式でおもしろ味が全くない。センター試験の方がまだ解く気になった。

その2 TOEIC の点数 = 英語力とはいえない

英語が得意な人ほど点数がとれることは否定しないが、語学力に直結するものではない、と個人的に思う。

その3 特化した対策をすれば点数がとれる

英語が苦手でも、専用の問題集を使って対策をすれば点がとれる。資格試験であると考えれば普通にも思えるが、足切りの判断にするのはいかなものか。実践出来なければ意味がないのでは。

このような理由から、私がこれまで TOEIC を受けたのは学内で強制的に受験させられた 2 回だけだが、問題集を使って独学で勉強した 2 回目には、1 回目の点数を 100 点以上上回り、目標の 600 点を達成することができた。英語より数学が好きで、英語を自分から積極的に勉強しようとは思えないこの私が。

ということは、TOEIC は勉強すればその分結果として返ってくる、頑張れば誰でも取得できる資格であるということだ。

少々文句を言ったが、TOEIC は今後ますます避けて通れない道となることも承知している。(私はもう満足したのでしばらく受験する